

## 平成25年度 流域管理の取組結果表

No. 112 (当初計画: No. 107)

東北森林管理局

取組名	山形県林業まつりへの参加・協力(継続)
流域名	最上・村山流域(山形)
分類番号	ウー17、カー27
実施箇所及び実施日	実行委員会の開催 平成25年9月17日 第23回山形県林業まつり 平成25年10月19日～20日
取組の背景及び必要性	県民に森林・林業に対する理解をいただくとともに、林業・木材産業の振興を図るため、県をあげて林業まつりが実施されており、当署としても、森林・林業及び国有林のPRの機会として、毎年参加している。
取組の内容	木工品の販売や小木工教室を実施するとともに、実行委員会からの要請を踏まえ、「災害復旧の取り組み」として、暮らしを守る治山事業の取組や海岸防災林の復旧・再生への取組のパネル展示により情報提供を行った。
国有林担当部局・役割	山形森林管理署 実行委員会への参画及びイベントへの参加によるPR。
連携協働相手先・役割	山形県、林業関係団体等 イベントの企画及び実施
取組の結果、反響、今後の課題等	林業まつりの二日目は雨に見舞われたが約3万名が来場。関係団体が一体となり、森林・林業・木材産業の役割や「木」の良さのPRに取り組んだ。
PRの実施状況及びその期待する効果	PR: プレスリリース 効果: 国有林野事業や「木」の良さが理解される。

【 参 考 資 料 】

取 組 名 山形県林業まつりへの参加・協力（継続）

**旬の県産食材や  
家具などずらり**  
天童・農林水産祭始まる



県農林水産祭が19日、天童市の県総合運動公園南側駐車場で始まった。本県の旬の食材や林業関連製品を目当てに多くの家族連れら

が訪れた。写真。県農林水産祭実施協議会と県林業まつり実行委員会が主催。会場にはキノコ、果物、野菜といった旬の食材のほか、ペレットストーブ、木のおもちゃ、家具などを展示する約120のブースが並んだ。丸太切り競争や積み木競争など子どもが木に親しむイベント、山形弁の歌い手として知られる朝倉さやさん（山形市出身）のミニライブも行われた。

最終日の20日は午前9時から午後3時まで開かれ、山形県住みます芸人の三浦友加さん（鶴岡市出身）のライブを予定している。



## 平成25年度 流域管理の取組結果表

No. 113 (当初計画: No. 108)

東北森林管理局

取組名	村山地域の森林施業集約化に向けた取組 (継続)
流域名	最上・村山流域 (山形)
分類番号	ウー16・17
実施箇所及び実施日	村山地域森林整備協定の締結 平成25年11月26日 村山地域森林施業集約化部会の開催 3月下旬 (予定)
取組の背景及び必要性	持続可能な森林経営に必要な適切かつ効率的な森林施業を行うため、施業の集約化と効率化を図る必要がある。
取組の内容	<p>村山地域における森林施業の集約化と効率化を図るため、関係機関による必要な情報と意見交換を行い、平成25年11月に森林整備推進協定を山形署、山形県村山総合支庁、山形県林業公社の三者で締結し、森林共同施業団地を1箇所設定した。</p> <p>3月下旬に村山地域森林施業集約化部会を開催し、設定した団地の概要説明や民有林と国有林の施業箇所を表示した図面作成のためのデータ提供を依頼する。</p>
国有林担当部局・役割	山形森林管理署 国有林に係る関係情報の提供
連携協働相手先・役割	山形県村山総合支庁、市町村、森林組合、林業公社、山形水源林整備事務所 森林施業箇所等の情報提供
取組の結果、反響、今後の課題等	森林共同施業団地を1団地設定したが森林所有者の参画により団地の拡充、新たな団地設定のため、関係機関と連携した民有林情報の収集、情報提供が必要。
PRの実施状況及びその期待する効果	署のHP プレスリリース 森林共同施業団地の設定等を核とした民国連携の推進。

【参考資料】

取組名 村山地域の森林施業集約化に向けた取組（継続）

村山地域森林整備推進協定の締結



## 民国連携の森林整備推進協定締結

### 1242haを森林共同施業団地に 山形森林管理署ほか



**村山地域森林整備協定締結式**  
山形県村山総合支庁・山形森林管理署・山形県林業公社

左から大山則幸山形県村山支庁産業経済部長、島津義史山形森林管理署長、細野武司県林業公社理事長

山形森林管理署、山形県林業公社、山形県村山総合支庁は11月26日、村山地域の国有林、公社林と県営林8万2913haを対象とする森林整備推進協定を締結した。そのうち、畑・田代・岩野地区の1242haを森林共同施業団地に設定している。

今回の協定は村山地域を整備し、効率的な森林整備を行うとともに、森林の多面的機能の高度発揮と資源の環境利用を図るために、山形森林管理署、山形県林業公社と山形県が隣接する地域で連携・協力して合理的な路網を定める。

森林施業共同団地のメリットは従来、国有林と国有林がそれぞれ個別に路網を整え、森林を整備してきたが、国有林と国有林の近接する地域では、計画段階から連携を図ることにより、奥地にある国有林と分散している国有林が一体となり、効率的な路網を整備し、高性能林業機械を活用するなどして、施業コストの低減が可能になる。また、国有林では、直接支払制度の対象となるなどのメリットも加わる。

森林共同施業団地の設定は全国で進められており、山形県内でも12年3月に置賜森林管理管内の小国町で設定されて、今回の協定締結はこれに続くもので、村山地域では初となった。

協定締結には、12年2月から村山地区の林業関係者が集まり、今後の間伐等の森林整備や路網開設などの予定を図面に落とし、その後に進めてきて、ようやく協定締結に至ったもの。今回は、山形森林管理署の現行の地域管理経営計画の期間に合わせて、15年3月までとしているが、整備の推進や、森林・林業の再生につなげていくという。

## 平成25年度 流域管理の取組結果表

No. 114 (当初計画: No. 109)

東北森林管理局

取組名	低コスト作業システムの推進 (継続)
流域名	最上・村山流域 (山形)
分類番号	ア-11、イ-14、ウ-17、オ-20
実施箇所及び実施日	コンテナ苗植栽現場見学会 平成25年10月17日 低コスト作業システム現地検討会 平成25年10月30日
取組の背景及び必要性	間伐の低コスト化は重要な課題であり、列状間伐及び路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムについて、普及定着を図る必要がある
取組の内容	管内の行政機関、林業事業体及び森林組合等を対象に、列状間伐及び路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的な作業システムの普及啓発を目的に、国有林をフィールドに現地検討会を開催した。また、造林コストの縮減に繋がるコンテナ苗の植栽現場の見学会を開催した。
国有林担当部局・役割	山形森林管理署、局計画課・販売課・森林整備課 現地検討会の企画実行、講師派遣
連携協働相手先・役割	山形県村山総合支庁、山形県林業公社 市町村、森林組合、林業事業体、調査設計者、土木業者等 現地検討会の企画実行、検討会への参加。
取組の結果、反響、今後の課題等	関係機関と連携を図り、生産性の検証や低コスト作業システム等の普及定着のための検討会を開催し林業生産性の向上と林業事業体の技術力に取り組む必要がある。
PRの実施状況及びその期待する効果	署のHP 林業事業体等の技術向上と間伐の低コスト化の推進。

【 参 考 資 料 】

取 組 名	低コスト作業システムの推進（継続）
-------	-------------------

コンテナ苗植栽現場見学会



低コスト作業システム現地検討会



平成25年度 流域管理の取組結果表

No. 115 (当初計画: 111)

東北森林管理局

取組名	県産材利用促進の取組 (新規)
流域名	最上・村山流域 (山形)
分類番号	カ-24
実施箇所及び実施日	当署管内治山工事2箇所において、山形県産スギを使用した土木用型枠合板を使用
取組の背景及び必要性	管内の充実しつつある森林資源を活用し、林業の活性化を図るには、県産材の利用促進に向けた新たな需要の開拓が必要である。
取組の内容	平成24年11月に山形県農林水産部と山形森林管理署は県産材土木用型枠合板における連携・協力に関する協定を締結しており、山形県産材土木用型枠合板の実証試験に関する試験地の共有及び検証、公共工事等への利用及び普及について連携することとしている。 この協定に基づき、平成25年度に当署の治山工事2箇所において、県産材土木用型枠合板350枚を使用。
国有林担当部局・役割	山形森林管理署 県産材を使用した製品の治山工事等への使用。
連携協働相手先・役割	山形県 県産材を使用した製品の治山工事等への使用。
取組の結果、反響、今後の課題等	当署の治山工事(2箇所)において、県産材土木用型枠合板350枚を使用。
PRの実施状況及びその期待する効果	署のHP 県産材の利用促進による需要の拡大。

【 参 考 資 料 】

取 組 名	県産材利用促進の取組（新規）
-------	----------------

山形県産材土木用型枠合板の使用状況（龍山治山工事）



山形県産材土木用型枠合板の使用状況（藁口治山工事）



## 平成25年度 流域管理の取組結果表

No. 116 (当初計画: No. 110・112)

東北森林管理局

取組名	森林環境教育の推進と森林教室の開催による国有林野事業のPR (新規)
流域名	最上・村山流域 (山形)
分類番号	カ-27・31・32
実施箇所及び実施日	幸生小学校森林教室 講師派遣 平成25年5月31日 ふるさと教育の森 講師派遣 平成25年6月4日～7日 山形グリーンライフ女性の会林業体験 平成25年10月11日 渓谷の紅葉川と治山事業の見学会開催 平成25年10月24日
取組の背景及び必要性	国民参加の森林づくりを進めるためには、森林の持つ多面的機能や森林資源の循環利用の必要性に対する理解を醸成するとともに、地域の森林・林業への理解を深めてもらうことが必要であることから、森林教室等の開催を通じた国有林野事業のPRに取り組むことが必要。
取組の内容	森林環境教育の推進のため、管内中学校や森林ボランティア団体の林業体験に職員を講師として派遣するとともに、活動のフィールドとして国有林を提供した。また、一般市民を対象とした森林教室 (森林空間総合利用事業) に治山施設の見学会を組み入れ、森林の持つ公益的機能の体感や安全・安心な暮らしを確保する治山事業のPRを実施。
国有林担当部局・役割	山形森林管理署 職員の派遣、アドバイス、森林教室の企画及び実施
連携協働相手先・役割	市町村、森林ボランティア団体 森林教室の企画及び実施
取組の結果、反響、今後の課題等	一般市民を対象とした森林教室では参加者が固定しており、新たな参加者の掘り起こしや開催内容の検討が必要。
PRの実施状況及びその期待する効果	署のHP、市町村広報 森林の役割や地域の森林・林業への理解を深める。

【 参 考 資 料 】

取 組 名	森林環境教育の推進と森林教室の開催による国有林野事業のPR（新規）
-------	-----------------------------------

幸生小学校森林教室



ふるさと教育の森



山形グリーンライフ女性の会林業体験



溪谷の紅葉川と治山事業の見学会

